

学び方を学び、他にはたらきかける社会科教育

～資料活用能力と表現能力の育成～

水 橋 長 之
社 会 科 小 竹 淳 夫
大 場 華 代 子

1. テーマ設定の理由

新学習指導要領の社会科における改善の基本方針には、社会の変化に自ら対応する能力を育成する観点から基礎的・基本的な内容に厳選し、学び方や調べ方の学習、作業的、体験的な学習や問題解決的な学習など生徒の主体的な活動が一層重視されることが明記されている。これらのことは、以前からも言われ続けていたことであるが、ここにきて再度強調されることにより、時間を充分とって、計画的に取り組んでいかなければならない。

本校社会科においては、これまでの研究の「生きてはたらく力の育成（みつめ・確かめ・表現する）」の成果を生かしながら、事実認識の方法を身につけるため、事例を通して課題を追求、考察する学習を展開し、その学習の過程において調べ方や学び方、見方や考え方を学び、適切に表現する能力や態度を育成したいと考え、研究のテーマに設定した。

2. 各分野における取り組み

《歴史的分野》

『わが国について関心ある主題を設定し、まとめる作業的学習』

この中項目は、中学校の歴史学習の導入として位置づけられ、時代の移り変わりに気づかせるとともに、歴史を学ぶ意欲を高めることがねらいとなっている。

(1) 学習の流れ

第1時 小学校での歴史の復習

- ① 時代区分を古い順からノートに書き出し、発表する。
- ② 歴史上の人物で、興味をもった人物をその理由とともに発表する。
- ③ 次の授業の予告（小学校の教科書を持参すること）。

第2時 関心ある主題の設定

- ① 前時の復習。
- ② きまりの確認。
 - ・ 3つ以上の時代にまたがるテーマを各自が自由に考える。
 - ・ 細かな事象にこだわらず、大きく時代をとらえること。
 - ・ B4用紙2枚以内でまとめること。
 - ・ イラストなどを多く取り入れ、カラフルに見やすく仕上げること。
 - ・ 時代の流れがわかるように表現すること。
 - ・ 本時もふくめて3時間で仕上げること。
 - ・ 仕上がった作品は学級全員で見せ合うこと。

- ③ テーマ設定のためのアドバイス。
 - ・小学校の教科書を見て、ふりかえりながらテーマを決めること。
 - ・短時間で仕上げなければいけないので、適切な資料が簡単に手に入るテーマがふさわしいこと。
 - ・テーマ設定の理由をノートに書くこと。
 - ・次の授業までに適切な資料をもってくること。

第3・4時 テーマについてまとめる作業的な活動

- ① きまりの再確認。
- ② 作業。
 - ・レイアウトを考えて作業すること。
 - ・文字をたくさん書きたがるので、一目で時代の流れがわかるようにイラスト等を多用すること。
 - ・時間内でできない場合は、家庭で仕上げること。

第5時 作品を評価しよう

- ① お互いに見せあい評価しよう。
 - ・学級の中でテーマについてわかりやすくまとめられていると思う作品に投票しよう。
 - ・自分の作品を机において、全員の作品をゆっくり見てまわる。
 - ・わかりやすいと思う作品に投票する。
 - ・投票は1人持ち点7点。何人にどのように配分してもよい。
- ② 投票結果の発表。
 - ・上位5作品程度を発表する。
 - ・優秀作品は実物投影機で提示し、どこがよかったのかを再確認していく。
 - ・優秀作品は、しばらく学級掲示板にはっておく
- ③ 自己評価をしよう。
 - ・活動をふりかえって、自己評価してみる。
 - ・他の人の作品を見て、自分の作品で改善したらよいと思った点を書きとめておく。
 - ・できあがった作品は、ノートにしっかりはっておく。

(2) 生徒が選んだ優秀作品



(3) 考察

生徒一人一人が興味あるテーマを選び、自主的に積極的に調べて作品を仕上げている。小学校での授業を思い出しながらの活動となりとても有意義なものとなった。作品の仕上がりもよく、満足のいく活動となった。しかし、個人的な活動であるため、会話も少なく黙々とした活動となってしまった。また、全員が発表する場を設定し、相互に学びあう場を設定することができるように工夫すれば、よりよい活動になったと思う。

『身近な地域を調べる学習』

この中項目は、地域への関心を高め、地域の具体的な事柄との関わりの中で我が国の歴史を理解させることと歴史の学び方を身につけさせることがねらいとなっている。また、「地域の特性に応じた時代を取り上げる」ことになっており、どの時代を選択するかは各学校にまかされている。本年度は、「近世の日本」の（エ 産業、交通の発達・町人文化・地方の生活文化）で取り上げたい。加賀百万石の城下町金沢は、今年、金沢城址公園が整備され、伝統的な技法を用いて城の一部が復元された。石川県・金沢市でもフェスティバルを開催した。また、NHKの大河ドラマの舞台となることも決定し、地域あげてのブームとなっているため、生徒たちの興味・関心・意欲も高まってくるものと思われる。そこで、金沢城周辺地区で調べ学習を行う予定である。この地域には石川県立歴史博物館や兼六園などがあり、絶好の調査場所であると考えられる。午後に2時間連続の授業行うことができないか模索中である。実際、校外へ出て調べ活動をするためには、様々な問題点が予想されるが、何とか克服して実践するつもりである。

《地理的分野》

『日本の地域構成』 (イ) 都道府県の構成と地域区分

〈日本の都道府県パズルを作ろう〉

作業的活動を通して、日本の都道府県の位置と名称を身につけさせるため、また自らが繰り返し習得するために、都道府県パズルの製作が最適であると考えた。厚さ5mm程度の発泡スチロール性の板を準備し、その上に日本地図を貼り、カッターで都道府県を切り取っていく活動を3時間で行う予定であった。生徒に取り組ませる前にやってみたところ3時間ではとても終わらせることができず、細やかなカッターの動きが必要になり、少し危険であると判断した。切り取った都道府県のパーツも軽く紛失が予想された。保管が難しく、完成にたどりつく生徒が半数程度と考え、この活動は断念した。今後、さらに良い方法がないか模索していきたい。

《公民的分野》

『現代日本の歩みと私たちの生活』

この中項目は、地理的・歴史的分野との内容的な融合を図り、また、生徒が関心をもって取り組めるよう、身近な生活と関連づけ、生徒自身が調べたり、話し合うなど生徒の主体的な活動を大切にすることをめざした。

(1) 学習の流れ

第1時 現代の社会ってどんな社会か考えてみよう。

アンケートで、生徒の関心事や社会への不満などをまとめ、そこから自分は、現代の社会をどのような社会としてとらえているかを確認する。

第2～5時 現代の暮らしを過去と比較して見つめてみよう。

身近な人への「あなたが中学校3年生の時・・・はどのようなでしたか？」というインタビューを通し、高度経済成長を経て日本人の生活のようすがどのように変化したのかを知り、現代社会の特色を探る。

- ・高度経済成長期のはじめの頃と現在の生活のようすと比べるために、どんな項目についてインタビューすればよいかあげてみよう。はじめに個人で考えてみる。
- ・グループとして、インタビューする項目をまとめ、発表する。他グループの発表を聞き、もう一度インタビュー項目をグループで見直す。
- ・各自でインタビューを行う。プリントに内容をまとめ、グループ内で発表する。
- ・各自のインタビューをグループのインタビューとしてまとめ、発表の仕方や分担を考え準備する。
- ・発表を聞き、わかったこと疑問点、発表の態度についてなどを互いに伝える。
- ・自分のインタビューや他の人の発表からわかった『現代の社会の特色』を自分の言葉でまとめ、発表する。
- ・今までの活動について自己評価（よかった点、今後の課題となる点）を行う。

(2) 生徒のまとめた『現代の社会の特色』

- ・1960年代から見て、とても大きな変化が出てきていると思う。当時の電化製品、生活用品、暮らし、服装、また、流行や学校なども変わってきています。ただ、当時の文化を土台に現代の社会もできているわけだから、特色の共通点も多いです。私が言えることは、1960年代から日本は変化し続け、どんどん外国の文化を取り込んでいるということです。このことから、現代の社会は変化する社会だと思います。(女子)
- ・現代の社会は、物が豊かになった分、昔と比べて失われてきた物も多いと思った。大人や親に対しての子どもの態度はそのいい例だと思う。これから先、どんどんいろんな発展があると思うけど、発展してだけでなく、昔からあるよいものを残していくことも大切だと思う。(男子)
- ・現代社会は、私達の親が子供だった頃からどんどん変わっていき便利になっている。今では「フツウじゃん」と思っていたことが、昔ではすごいことだったり、昔あったことでも今では「こんなモノあったんだー」というようなものがたくさんありました。また、便利になるのと同時に失うものもあるということがわかりました。(女子)

(3) 考察

生徒は、親と自分たちを比べることで、約30年の間の日本人の生活が大きく変化したことを身をもって理解したようである。また、質問を作ったり、インタビューの考察などの活動から、「今後、インタビューをするときにはこのようにしていきたい」と学び方を学んだ生徒も多く見られた。一方で、現在の生活しか体験していない生徒にはそれがあたりまえになっており、何について問えば現在の生活の特色が見えてくるのか悩んだ生徒も多く見られた。自分の今の生活を見つめるための手だてを工夫していく必要がある。

『個人と社会生活』

この中項目は、家族・地域社会の機能など、身近で具体的な社会生活の事例を扱い、人間が社会的存在であることに着目させて、個人と社会とのかかわりについて考えさせることをめざした。

(1) 学習の流れ

第1時 未来の家庭シミュレーション

「20XX年あなたは、互いに人生をともに歩んでいきたいと思う人がいます」という設定で、家族や社会とのつながりについて考えるシミュレーションをおこなう。公民学習のはじめであり、また、人権、社会福祉、経済などへの関心を高めるきっかけにもなると考え、結婚、姓の選択、仕事、家事、育児、親の老後、自分の老後などについて、自分は何のような立場を選択するかをそれぞれに考えた。その際、なぜ、そのような選択をしたのかという理由を必ずプリントに明記した。

第2時 自分の未来を選ぼう

次の時間には、各人のシミュレーションをもとに、教室のなかで、自分の選んだ記号ごとに集まり、それぞれが、どのような理由でその立場を選択したのかを互いに話しあった。

(2) 考察

シミュレーションの結果、生徒の選択は「それが普通だから」「女性の方が家事や育児が得意である」という理由で、結婚し、妻は夫の姓へ改正し、家事・育児は主に女性がおこなう、というものが多かった。このような選択は男子に特に多く見られたが、女子の中にも「それが女の幸せというもの」という発想がまだまだ根強く残っているようであった。しかし、多くの女子が家庭を持った後も働きたいと答え、また、家事は協力して分担したいと答えていた。各クラス1、2名であるが、「結婚する」に対し「結婚という形をとらない共同生活をおこないたい」と答える女子がおり、そのことから、新たな人生観を知った生徒もおり、自分と社会との結び付きを考える一助になったのではと思われる。

意見の交換にもっと時間をとり互いの考えを深めることができるとよかったであろう。

3. 選択教科としての「社会」の取り組み

《選択社会A》～補足的な学習～

(1) はじめに

選択社会Aの内容は、補足的な学習として設定した。生徒を募集するときに、地理的分野における内容と限定して、テーマを『都道府県ランキングマップをつくろう』とした。

新学習指導要領において、「都道府県の位置と名称」は今まで以上に大きく取り上げられていると同時に、基礎的・基本的な内容として、徹底がはかられるようにと書かれている。このことをふまえて、選択社会Aの内容としてよりふさわしいものであると考えた。

「ランキング」の方法を取り入れたのは、上位以外を見落としてしまうという欠点が考えられるが、マス＝メディア等によく見られるものであり、生徒にとって親しみを持って取り組めるであろうと考えたためである。このため、生徒の作品はいろいろな角度から見たユニークなランキングマップになる事が予想され、意欲的な活動となることを期待した。

(2) 指導の流れ

第1時 オリエンテーション

- ・授業内容について

生徒各自が文献調査やインターネット検索によって、様々なデータをもとに都道府県のランキングを探し、各内容におけるベスト5の都道府県を1枚のプリントにまとめる。最終的には、47都道府県を網羅できる事をめざした。

授業の流れを確認すると同時に、持ち物として、地図帳や日本地理の資料集、色鉛筆などを持参することとした。

- ・都道府県名の確認テスト

どの程度都道府県名を把握しているのか生徒自身の確認のために行った。

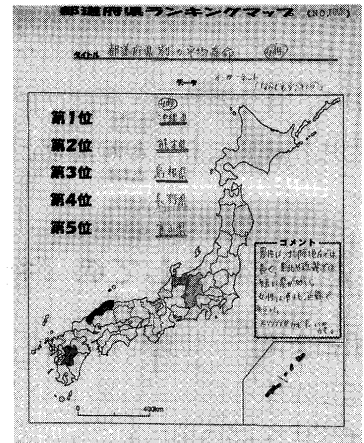
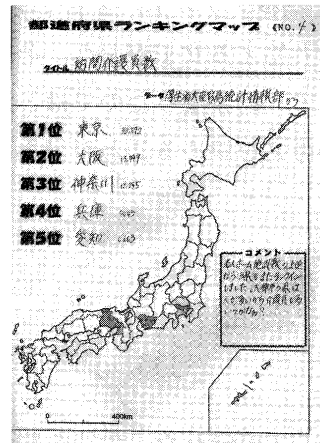
第2時～第10時 都道府県ランキングマップをつくろう

- ・各自の興味・関心に応じて、データを選択し、上位5つのランキングをつくり、白地図に都道府県名を書き、その地域を色塗りした。
- ・また、上位の都道府県の分布からコメントを記入した。

第11時 最終回

- ・各自、自由な表紙をつけて製本し、お互いの作品発表会を行った。
- ・再び、都道府県名の確認テストを行い、どの程度把握したのか確認した。

(3) 生徒作品事例



(4) 事後アンケートの結果より (対象: 選択 A 前期受講者23名)

1. 「都道府県ランキングマップ」は楽しく取り組みましたか
 - ・とても楽しかった (10名) ・楽しかった (13名)
 - ・あまり楽しくなかった (0名) ・楽しくなかった (0名)(理由) ・いろいろな都道府県について、位置などもわかった。
 - ・都道府県の特徴をランキングで楽しくわかったから。
 - ・身近な生活との関連がつかめたから。
 - ・友人とも意見を言い合いながら楽しくできたから。
2. この授業で、どのようなことを学んだと思いますか。
 - ・都道府県の位置や特色を学んだ。 ・資料をデータにする力が身についた。
 - ・日本の中でのいろいろな産業、文化の中心地などを知ることができた。
3. この授業で、特に頑張ったことはどのようなことですか。
 - ・できるだけ枚数を増やしたこと。 ・コメントを工夫し、書いたこと。
 - ・都道府県の名前と場所を覚えること。 ・知らなかった新しい発見をする。
 - ・気候・文化・人口・社会など様々な面との関連を自分なりに考えたこと。
 - ・なるべくランキングを何かのテーマと関連づけようと思ったこと。
4. 選択Aで「社会」を選んだ理由は何ですか。
 - ・様々な方向から日本を見ることができそうだったから。
 - ・社会が苦手だったから。少しは好きになれたらいいと思ったので。
 - ・地理を学ぶため。 ・社会が好きだから。面白そうだと思ったから。
5. 今後、選択A「社会」としてどのようなことを学んでみたいと思いますか。
 - ・企業の取り組み・町づくり計画 ・世界のランキング・歴史的建造物
 - ・外国との関連 ・政治、経済 ・一つの県について・歴史上の人物
6. その他、何か意見があったら書いてください。
 - ・今回の活動で学んだ力を自分のこれからにも生かしていきたいと思う。
 - ・とても楽しく活動できました。各自で調べたので、自分なりの作品ができよかったです。あつという間に終わってしまって残念です。このような「自分で考え進めていく」というような学習も大切だと思います。
 - ・使う本やホームページは限られてくるので、データがかぶりやすかった。

(5) 考察

事後アンケートの結果、予想以上に楽しく、有意義に活動できたようである。また、この活動のねらいである「都道府県の位置と名称」についても、ほとんどの生徒が今回の授業で学んだこととして上げており、概ねねらいを達成する事ができた。さらに、コメントを書くときの工夫として、多くの資料を活用し、自分なりにまとめるという資料活用・表現の能力からも成果が見られたと思われる。

社会が好きな生徒も嫌いな生徒も参加しての選択 A であったが、どの生徒も一様に、楽しく活動できたことから興味・関心を持っての活動となったことは大きな成果であろう。また、確認テストの結果ほとんどの生徒が、第1回の確認テストより多くの都道府県名を正解することができ、全問正解の生徒も増加した。どの生徒も、最初の確認テストよりも多くの正解をすることができたのは、良い成果であったと考える。

《選択社会B》～発展的な学習～

(1) はじめに

選択社会Bでは、3年生の2時間続きの授業を生かし、社会科に興味や関心のある生徒が発展的な学習をおこなうことを目標とし、必修では取り扱いが難しい体験や見学を中心にすすめることとした。

(2) 学習の流れ

① 計画	第1・2時	オリエンテーション
	第3・4時	身近な地域の調査（野田山前田家墓地）
	第5・6時	見学のための事前調査1
	第7・8時	見学のための事前調査2
	第9・10時	金沢市議会見学
	第11・12時	レポートづくり
	第13・14時	金沢地方裁判所見学
	第15・16時	レポートづくり
	第17・18時	日本銀行金沢支店見学
	第19・20時	レポートづくり
	第21・22時	レポート発表会

② 学習の経過

11回の授業のなかで4回の見学を計画した。生徒のアンケートでは、「普段行けないところで教科書なかになくてくるところを実際に見たい」「勉強してもすぐ忘れるけど、見学したら覚えていられる」と見学への関心は非常に高かった。見学・調査の第1回目となる野田山の調査は、主に墓地の管理をされている方にお話を聞かせて頂き、今後の見学でのインタビューの仕方の学習になるよう配慮した。その他の見学箇所は、学習として教科書に出てくるところで見学ができるところを生徒と調べながら決定していった。見学のための事前調査は、教科書、資料集を中心とし、図書、インターネットなどを使い3つのグループに分かれ、それぞれ、地方議会、裁判所、日本銀行について調べ、最後に互いに調べたことを発表し、見学への意識づけとした。

この時期、まだ3年生の社会科では学習していないことからであるため、取って時間をとり、自主学習をおこなった。生徒は、見学への意欲から非常に熱心に学習し、発表していた。また、学習したことから各箇所での質問を互いに出し合いまとめ、担当者が中心となり質問をさせていただけるようにした。

見学について、生徒は次のような感想をあげている。

- 【市議会】**
- ・もっと静かで厳かなものかと思っていたら、席を立ったり、後ろを向く議員がいたり、意外と「村の集い」みたいな庶民的な感じがした。
 - ・発言者が自分の意見をしっかり言っていてすごいなと思いました。
 - ・一般の人も傍聴できるが、とても厳粛な感じがした。私たちを代表して話しあっている市議会にもっとみんなが関心を持ってほしいと思った。
 - ・市議会で話されていることは、私たちの生活のなかでとても大切なことだと思った。
- 【日本銀行】**
- ・莫大なお金を取り扱っていて厳重な警備が必要なことがよくわかった。
 - ・お金の流通やお札など、ちょっとしたところにも工夫がされていてすごいと思った。
 - ・日本銀行券の流れはすごいなと思った。実際のお金や仕事場など見られてよくわかった。

- 【裁判所】
- ・裁判官の黒い服が「どんな色にも染まらない」という意味らしくそれが印象的でした。
 - ・思っていたより、裁判の数は多く大変なんだなあとと思った。
 - ・とても重い雰囲気、常に公平にするためなんだなと思いました。
 - ・人権を守るために裁判所はとても大切なところだとお話しからわかった。

レポートは、パソコンでもつくれるよう、写真などは学校のデジタルカメラをグループで一台準備した。しかし、表現の多様性を大切にされたため、手書きのレポートでもよいこととした。

授業後のアンケートで、「選択社会Bは、社会科の学習としてどんな点が役立ったか」という問いに次のように答えている。

- ・実際に見学に行くことで、教科書などから見るのではなく自分の目で見て体験することができる。また、私たちの生活を支えてくれている人々の姿を見ることができる。きっとこれからも忘れないと思う。
- ・金沢市に住む者として、私たちの代表者の話し合いを聞くことができてよかった。
- ・話の聴き方、質問の仕方、社会の常識やマナーなどについても学ぶことができた。他の活動でも役立つと思います。
- ・お話しをお聞きして、今の世の中の政策、動き、決まりなどがテレビや新聞よりわかりやすく身近に知ることができた。新聞を読んでもわからない言葉だらけだったけど、ようやくわかるようになってきた。
- ・公民の学習でも、見学に行ったところはスムーズに理解できた。
- ・教科書に書いてあることばかりが社会の学習ではないということがよくわかった。実際に見てくるとは社会の学習でとても大切なことだと思った。
- ・社会が好きになった。
- ・将来役に立てられそうなことを学んだ。

(3) 考察

生徒からは、「事前学習をさらにしっかりすること」「まとめの時間の確保」「コンピューターをもっと使いたかった」「見学箇所はたくさんあったほうがよい」などの感想があった。ただ、「行った、見た、楽しかった」にならないようにするために、事前学習での意識付けの充実や発表において他の人に何を伝えたいかを意識させていくことが大切であり、後期の学習の課題として取り組んでいきたい。

見学先と連絡をとってみると、「見学は一回に20名まで」というところが2か所あり、人数的な配慮が必要であることがわかった。

また、見学先にもよるが、特に、今回出かけたような場所では、教師一人の引率で、生徒の自主的な活動を助けていくためには、かなり生徒数を少なくし、一人一人の行動を見守れる環境づくりも重要であろう。